

## 施策評価調査【令和7年度実施事業】

政策名	7 地域が輝くまちの創生	関係課名	直川振興局
施策名	6 人と地域がささえあい 安心と活力に満ちた里 直川～直川地域～		
総合計画頁	P108～109		

## 【1-1 主な取組】

主な取組	ア	イ	ウ	エ
	地域で安心して暮らすためのコミュニティづくり	安全に暮らすための防災対策の推進	持続可能な農村づくり	直川産品のブランド化の推進
主な取組	オ	カ	キ	ク
	地域資源を活用した観光産業の推進			

## 【1-2 主な取組の実施状況】

主な取組	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
ア	<p>(ア) 新たな地域コミュニティ組織の設立・運営とコミュニティバスの利用促進 設立3年目の直川地域コミュニティ協議会が実施した各種事業や専門部会、運営委員会に積極的に参加し支援を行った。コミュニティバスについてはR8年3月のダイヤ改正に合わせて地域独自の時刻表を作成し全戸配布し利用促進に努めた。</p> <p>(イ) 直川地域協力隊及びボランティア団体の支援並びに社会福祉協議会との連携 直川地域協力隊の新規隊員の勧誘を行うとともに作業の効率化及び負担の軽減を図るため、県の高齢化集落等支援事業補助金を活用し自走式草刈機の導入を支援した。 ボランティア直川による『いっちみろうやふれあいの集い』や同団体が社会福祉協議会と連携して実施する高齢者へのクリスマス配食の支援をした他、ボランティア団体が実施する高齢者の集い『直川つぼみ食堂』についても支援を実施した。</p> <p>(ウ) 空家バンクの登録促進及び移住定住ツアーの開催 直川地域コミュニティ協議会のホームページにおいて空家バンクサイト(山間部検索結果に直接リンク)を組み込んで周知を図った。移住定住ツアーについては空き家の登録が少ないことから実施が出来ていない。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
イ	<p>(ア) 消防団員及び防災士の確保と育成並びに防災の啓発活動 消防団員の確保については、地域内の若者に対して勧誘を行い、新たに3名の入団があった。育成については、小型ポンプ操作、とりわけ最近多発している山林火災を想定した訓練を実施し消防力強化に努めた。また、防災講演会などの機会に防災士資格取得の呼びかけを行った。</p> <p>(イ) 直川消防団応援隊及び直川地域防災連絡協議会の支援 直川消防団応援隊の入隊勧誘を継続して行うとともにコミュニティ協議会と共催し孤立集落対策の講演会の開催や家庭用火災警報器取替周知、災害時市民開放井戸の登録推進の取組の支援を行った。</p> <p>(ウ) 指定避難所の整備 災害時の通信手段確保の目的で指定避難所(直川地域コミュニティセンター等)にWifi環境を整備した。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
ウ	<p>(ア) 認定農業者及び若手農業者の育成 減少を続けている農業者の増加を図るため、直売所向けの出荷者協議会員募集のチラシを全戸配布した。また新たな若手農業者の確保のため中学生に向けた有機農業の講演会を実施した。</p> <p>(イ) 集落営農組織の育成・法人化及びライスセンターの支援 令和7年度にライスセンターの指定管理者が代わったため、スムーズな運営ができるよう、施設整備などの支援や助言を実施し、これまでと変わらない体制で運営することが出来た。</p> <p>(ウ) 農地の多面的機能の維持や有機農業の推進 直川堆肥センターで生産した堆肥の利用促進や、集落営農組織の有機農業推進のため学校給食への提供支援を行いオーガニックの機運を高めることができた。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
エ	<p>(ア) 食味評価の高い「まるごと直川米」の生産や高品質な麦・大豆の生産拡大 なおかつ秋色フェスタにおいて、直川米のブースを設置しPRを行なった。全国的な米価の高騰及び米の品薄により直川まるごと市場への直川米の間合せも数多く寄せられ地域外へのPRとともに、生産者の収入増に繋がったが、十分な確保が出来ずニーズに答えられなかった。今後は農事組合法人「なおみ」を中心に農業者と事前協議し直川米の確保に努める必要がある。</p> <p>(イ) 米、麦、ジビエなど直川産物を活用する事業者等への支援 地元産の稚茸やジビエの拡大を目指す加工場の立ち上げについて支援を行った。これにより稚茸生産やジビエの推進を図ることが期待される。 地元産の小麦粉やもち米を活用し農産加工品を販売している直川まるごと市場へ販売促進に繋がるアドバイス等を行っているが、最低賃金の大幅な上昇や物価高騰により厳しい経営が今後も続くことが見込まれる。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

オ	<p>(ア) グリーンツーリズムの推進 直川地域の農家民泊経営者と連携し、農業体験等のグリーンツーリズム事業を実施した。今年度は国内（京都・大阪・福岡）の学生の研修や国外（台湾・アメリカ・オーストラリアなど計7ヶ国）のインバウンド旅行者、合計127人を受け入れた。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
	<p>(イ) 花のある里づくりの推進 今年度も「なおかわ桃源郷プロジェクト」により、ハナモモの苗木50本を申請のあった1団体に配布し、植樹してもらった。また、ハナモモの鑑賞スポットを創出するため、体験公園亀の甲なおかわの下刈りや剪定、支障木の撤去などの管理を行った。</p>	
	<p>(ウ) 地域活性化・交流人口の拡大のためのイベント開催 毎年恒例の「なおかわ夏祭り」を秋の屋間に移行し、名称も「なおかわ秋色フェスタ」に変更して開催した。ステージイベントを中心に、27店の出店者（テント18店、テント外2店、キッチンカー7店）が集まり、約1,500人の来場者で賑わった。その他、雨天のため直川中学校体育館にて開催された源六BAL野外映画祭は約250人が来場し3月のハナモモの開花時期に開催した「さくらウォーキング大会」には74人が参加するなど交流人口の拡大につながるイベントの開催を支援した。</p>	
	<p>(エ) 直川憩の森公園キャンプ場、鉱泉センター直川、直川カントリー倶楽部などの観光施設を磨き上げ、新たな価値を創出 直川憩の森公園キャンプ場については、大型バンガローのエアコン設置やカブトムシ・クワガタのモニタリングの補修等を行った。かぶとむしふれあい館オープン時には直川子ども園の園児を招いてプレオープンイベントを開催し、その様子をケーブルテレビや新聞に取材してもらうことで魅力の発信を行った。 鉱泉センター直川については、4月に新たな指定管理者に変わり、休業後のオープンイベントや自主イベント「カブロック」の駐車場確保や広報などの開催支援を行った。直川カントリー倶楽部については、ここ数年猛暑により夏にペント芝が傷むため、夏に強い高麗芝に2年かけて3ホールずつ順次張り替えることになり、2月から1〜3番ホールの張り替えを開始した。</p>	
	<p>(オ) SNSやメディアを活用した地域の観光、文化、イベントの情報発信 佐伯市の観光WEBサイト「佐伯市観光ナビ」や直川地域コミュニティ協議会（ミラサポ）のインスタグラムを活用して発信を行った。 その他にも、直川地域観光PR動画を撮影し、大分市周辺地域、宮崎県北部地域のケーブルテレビで放送して直川地域の認知度向上を図った。</p>	

【1-3 主な取組（R7年度実施）による評価】

評価		評価理由	平均評価
ア	A	直川地域コミュニティ協議会の活動により、防災活動やイベント開催など地域の安全安心・にぎわい創出への期待が高まっている。また、直川地域協力隊へのニーズ（作業受託件数）は高まっているが、隊員の高齢化が進行しているため、自走式草刈機を導入し、作業の効率化及び負担の軽減を図った。 コミュニティバスについては、デマンドバス予約の仕方や乗り継ぎ等を解説した直川地域版時刻表を作成し全戸配布するなど、利用促進に努めた。また、住宅用火災警報器の取替促進、特殊詐欺防止啓発などを行った。	A
イ	A	近年、多発している山林火災に対応するため、消防学校や火災現場を想定した現地での実戦的訓練を実施し、消防力の強化に努めた。 また、災害時市民開放井戸の登録推進や、設置後10年を経過した住宅用火災警報器の取替促進の取組など、地域を守るための防災体制づくりを推進した。	
ウ	A	ライスセンターの施設整備などの支援を行い、地区内農業者が安心して農業が出来るよう、繁忙期の作業支援をスムーズに行うことが出来た。また、直川堆肥センターで生産した堆肥の普及促進を図った他、学校給食への有機栽培米の提供により、有機農業の推進が図れた。	
エ	B	なおかわ秋色フェスタにおいて、直川米のブースを設置しPRを行なった。全国的な米価の高騰及び米の品薄により直川米の間合せも数多く寄せられ地域外へのPRとともに、生産者の収入増に繋がったが、十分な確保が出来ずニーズに答えられなかった。	
オ	B	開催時期を秋に移行して「なおかわ秋色フェスタ」として実施した賑わいイベントは地域内外から多くの方に来場いただき交流の場を創出することができたが集客規模については一昨年の3,000人に及ばなかった。また、観光施設の修繕やイベントへの支援のほか、観光WEBサイト・SNSの活用やPR動画を撮影し他地域のケーブルテレビで放送するなど情報発信にも取り組み、直川の魅力の再確認や発見に繋がる機会の創出に努めた。	

【2-1 目標指標】

目標内容	基準値・年度	実績値【R7年度】	目標値（令和7年度）	目標値（令和9年度）
(1) 直川地域協力隊の受託作業件数	45件/年 R3	66件/年	57件/年	65件/年

【2-2 目標指標による評価】

評価		評価理由	平均評価
(1)	A	直川地域協力隊の受託作業件数は過去3年（R5年度73件、R6年度72件、R7年度66件）で目標値を上回っている。受託内容は主に草刈り作業で、自身で作業できなくなった高齢者や離れた場所で暮らす方からの依頼が多い。その他、運転ボランティアとして買物支援（実証実験）も受託し、R7年度は3件の受託があった。今後も作業受託件数の増加が見込まれるため、今回導入した自走式草刈機により作業の効率化及び負担の軽減を図りながら地域のニーズに応えていくことが求められる。	A

【3-1 重点プロジェクト】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

重点プロジェクト名	
①	なおかわ安心プロジェクト
②	なおかわ活カプロジェクト

【3-2 重点プロジェクトの具体的な実施状況評価】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
①	<p>令和5年3月に発足した直川地域コミュニティ協議会による地域課題解決のための活動支援、直川地域協力隊や社会福祉協議会、その他ボランティア団体とも連携して高齢者の生活支援、防災への備え（防災講演会等）などの活動を行った。</p> <p>直川地域協力隊の受託作業件数はR3年度45件、R4年度69件、R5年度73件、R6年度72件、R7年度66件と推移してきている。今年度は作業の効率化のため自走式草刈機を導入した。コミュニティバスについては、運行ダイヤの改正にあわせて直川地域独自の時刻表を作成し、全戸配布をすることで利用率増加に努めた。</p> <p>災害への備えとして、消防団を対象に林野火災を想定した中継ポンプ訓練を実施するなど地域の消防力強化に努めた。また、災害時市民開放井戸の登録推進や住宅用火災警報器取替えの推進、wifi環境整備等による指定避難所の整備を進めるなど、安心して暮らせる防災体制づくりを推進した。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
②	<p>花のある里づくりの推進は、ハナモモの配布による植樹の他、他地域に誇れる鑑賞スポット創出のため、以前に植樹したエリアの下刈り、剪定等の管理を重点的に行った。地域活性化・交流人口の拡大のため各種のイベント（源六BAL野外映画祭、さくらウォーキング大会等）の開催を支援した。夏から秋に移行して開催した「なおかわ秋色フェスタ」も多くの来場者でにぎわった。イベントでは直川米PRブースも設置し直川米の魅力を発信することができた。</p> <p>グリーンツーリズム事業についても、国内外から広く受け入れを行った。観光施設については、老朽化していた3施設（鉱泉センター直川、憩の森公園キャンプ場、直川カントリークラブ）の設備修繕等を行い、さらには指定管理者の開催する集客イベントを支援した。情報発信については、観光WEBサイト・SNSを活用し、直川の魅力の再確認や花の開花情報など、関心を持っていただけるよう発信に努めた。ライスセンターの施設整備により繁忙期の作業支援がスムーズに行えた。また、直川堆肥センターで生産された堆肥の需要拡大の取組により、農業生産者からの需要も高まり、有機農業への支援ができた。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

【3-3 重点プロジェクト（R7年度実施）による評価】

評価	評価理由	平均評価
① A	<p>直川地域コミュニティ協議会による、防災活動やイベント開催など地域の安全安心・にぎわい創出への期待が高まっている。また、直川地域協力隊についてのニーズ（作業受託件数）は高まっているが、隊員の高齢化が進行しているため、自走式草刈機を導入し、作業の効率化及び負担の軽減を図った。</p> <p>コミュニティバスについては独自の直川版時刻表を作成し全戸配布や、老人クラブ等の集会などで乗り方動画を視聴していただくなど、継続的な利用率増加の取組を行った。加えて災害時市民開放井戸の登録推進、避難所wifi環境の構築、高齢者への買い物支援など、安心して暮らせる地域づくりを推進した。</p>	A
② A	<p>花のある里づくりの推進は、将来の観光名所とするべく、過去に植樹したエリアの管理を重点的に行った。交流人口増加のため、各種イベントを開催した。特に猛暑の夏を避けて秋に移行して開催した「なおかわ秋色フェスタ」は地域のにぎわいの場・市内外の方との交流の場・魅力発信の場となり地域活性化に効果があったと思われる。また、同イベント内で直川米PRブースも設けて直川米の魅力を発信し、地域の生産者の支援も行った。グリーンツーリズム事業については、国内外広い地域から民泊を受け入れ、コロナ禍からの立ち直りを見せている。観光施設についても管内3施設の施設修繕を実施し、今後の集客への足がかりとした。直川ライスセンターの施設整備による管内農業生産者への支援を行った。直川堆肥センターについても担当課との連携により、堆肥の需要拡大による有機農業の支援を行った。</p>	

【4 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	<p>直川地域についても人口減少・少子高齢化が進む中で、支えあいを前提に「安心」と「活力」の2つの大きなテーマを目標に掲げている。「安心」については、地域の困りごとの解決を目的に住民が自主的に組織した「直川地域協力隊」が多様な住民ニーズに応えている。隊員の高齢化を補うため自走式草刈機の導入を行い負担の軽減を行ったが、今後も隊員確保に取り組みたい。発足して3年目となった直川地域コミュニティ協議会による防災・見守り活動や、にぎわい創出のイベント開催なども積極的に展開されていることから今後も取組を支援していきたい。「活力」に関しては、地域内の観光施設等と連携、協力し地域の活性化に努めてきたところであるが今後は各施設を中心に、花（なおかわ桃源郷プロジェクトによるハナモモ）、食（直川米、椎茸（うまみだけ）、ジビエ、加工品等）をあわせ直川の魅力向上に取り組んでいく。その他、グリーンツーリズムによる教育旅行の農家民泊の際には農業体験のほかにも学校交流の場を設定できるよう団体と常に情報交換を行っていく。</p>